

# 第1回 人獣共通感染症研究拠点シンポジウム

2012年 6月14日(木)

北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター

(於 北海道大学獣医学研究科 講堂)

## プログラム

### 【午前の部】

---

9:00-9:05	開会の挨拶	人獣共通感染症リサーチセンター 統括 喜田 宏
特定共同研究機関成果発表		
9:10-9:50	鳥取大学	研究代表者/研究発表者 伊藤 壽 啓
9:55-10:35 (休憩)	滋賀医科大学	研究代表者/研究発表者 小笠原 一 誠
10:45-11:25	宮崎大学	研究代表者/研究発表者 三 澤 尚 明
11:30-12:10	岐阜大学	研究代表者 鈴木 正 嗣 研究発表者 福 士 秀 人

---

### 【午後の部】

---

12:10-13:10	昼食	
13:10-13:50	東北大学	研究代表者/研究発表者 服 部 俊 夫 研究発表者 北 本 哲 之
13:55-14:35	北海道大学	研究代表者/研究発表者 喜 田 宏

一般共同研究代表者ポスター発表  
14:40-15:40 ポスター発表

休憩(投票集計)

16:00-16:10 優秀ポスター発表表彰式

16:10-16:15 閉会の挨拶

人獣共通感染症リサーチセンター

センター長 伊藤 茂 男

---

16:20-17:20 意見交換会(特定共同研究代表者および評価委員のみ)

17:20-18:20 評価会(評価委員)

## 1. 人獣共通感染症の診断・予防・治療法の開発研究

## 2. 鈴木正嗣・福士秀人/岐阜大学応用生物科学部附属野生動物管理 学研究センター

## 3. 発表内容

人獣共通感染症の自然界における実態を明らかにするとともに、診断、予防、治療法を開発し、人獣共通感染症の制御法を確立する事を目的としている。23年度より実施体制を見直した。応用生物科学部附属野生動物管理学研究センターに研究組織を移管し、新たな共同研究者の参画を求めることにより、従来以上に総合的な人獣共通感染症の実態解明ならびに制御に関する研究を実施することとした。本研究を通じて次世代の人獣共通感染症の専門家を育成する事も目的の一つとした。研究内容は以下の4項目にまとめられる。

- 1) 野生動物の生態からみた人獣共通感染性病原体の存在様式ならびに伝播経路の解明：タヌキおよびイノシシの疥癬，ウシおよびエキゾチックアニマルのロタウイルス感染症，猟犬における野外人獣共通感染症（ジフテリア，破傷風，トキソプラズマ，ライム病ボレリア，ブルセラ），アザラシボックス，豚の流産および結膜炎事例におけるクラミジア感染症の実態調査を行った。
- 2) ウイルス，クラミジア，細菌および原虫性人獣共通感染症の病原性発現機構の解明：腸管でのプリオンの取り込みに関与する免疫系細胞の分化動態，プリオンの生体内伝播に関与する神経経路の解析，狂犬病の制圧のための経口ワクチンの開発，トキソプラズマ原虫が反芻動物において垂直感染するメカニズムの解明を行った。
- 3) 各種人獣共通感染症の迅速診断ならびに確定診断法の開発：家畜のクラミジア症診断系の開発を行った。
- 4) 論理的創薬手法により見いだされた化合物をベースとしたプリオン病および他の人獣共通感染症の予防及び治療薬開発：プリオン立体構造変換機構の原子分解能での解明，抗プリオン物質の最適化，抗インフルエンザウイルス物質の開発，他の人獣共通感染症ウイルス（エボラウイルス，JCウイルス等）への論理的創薬を実施した。

本年度より、病原体の性状解明や動態調査および創薬的研究に加え、野生動物管理と人獣共通感染症対策とを一体化させた視点からの研究を推進できる体制を整えた。